

(1) 茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 炭疽病 <i>Discula theae-sinensis</i>	1. 耐病性品種を栽植する。 2. 窒素質肥料の過用を避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 多発生が予想される時は萌芽期と1～2葉開葉期の2回散布が必要であるので、残臭期間に注意して使用薬剤を決める。 2. アミスター20フロアブル、スクレアフロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル25は、浸透性を高める展着剤を加用すると薬害のおそれがあるので注意する。	6 月上中旬 (二番茶芽開葉期) 7 月中下旬 (三番茶芽開葉期) 8 月下旬 ～ 9 月中旬 (秋芽開葉期)	1 1 3 3 3 3 3 11 11 11 11 M1 M1 M1 M5 29 M7・M1	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 トリフミン水和剤 インダーフロアブル オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 マネージD F アミスター20フロアブル スクレアフロアブル ストロビーフロアブル フリントフロアブル25 コサイド3000 ドイツボルドーA Zボルドー ダコニール1000 フロンサイドSC (混)ベフドー水和剤
2 網もち病 <i>Exobasidium reticulatum</i>	1. 多肥栽培を避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 主要発生時期は秋期であるので、三番茶を摘採する園では秋芽の萌芽から開葉期にかけて薬剤散布する。なお、三番茶を摘採しない園では三番茶の萌芽から開葉期にかけて薬剤散布をする。	7 月中下旬 (三番茶芽開葉期) 8月下旬 ～9月中旬 (秋芽開葉期)	3 11 29 M1 M1 M1 M1 M5 M7・M1	オンリーワンフロアブル スクレアフロアブル フロンサイドSC コサイド3000 ドイツボルドーA Zボルドー フジローLフロアブル ダコニール1000 (混)ベフドー水和剤
3 もち病 <i>Exobasidium vexans</i>	1. 茶園の中や周囲にある日照ををさえぎるものは、できるだけ少なくする。 2. 山間地で発生が多い。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 多発生が予想される時は萌芽期と1～2葉開葉期の2回散布が必要であるので、残臭期間に注意して使用薬剤を決める。 2. アミスター20フロアブル、スクレアフロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル25は、浸透性を高める展着剤を加用すると薬害のおそれがあるので注意する。	6 月上中旬 (二番茶芽開葉期) 7 月中下旬 (三番茶芽開葉期) 8月下旬 ～9月中旬 (秋芽開葉期)	3 3 3 3 11 11 11 29 M1 M1 M1 M1 M5 M7・M1	トリフミン水和剤 オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 マネージ水和剤 アミスター20フロアブル スクレアフロアブル ストロビーフロアブル フリントフロアブル25 フロンサイドSC コサイド3000 ドイツボルドーA Zボルドー フジローLフロアブル ダコニール1000 (混)ベフドー水和剤
4 輪斑病 <i>Pestalotiopsis longiseta P. theae Neopestalotiopsis spp.</i>	1. 耐病性品種(めいりよく等)を栽植する。 2. 多発園においては三番茶の摘採を中止する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 病原菌は、摘採などによって生じた葉や茎の傷口から侵入するので、トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は摘採後3日までに、ダコニール1000は摘採当日に使用する。 2. アミスター20フロアブル、スクレアフロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル25は、浸透性を高める展着剤を加用すると薬害のおそれがあるので注意する。	6月下旬 ～7月上旬 (二番茶摘採直後) 7月下旬 ～8月上旬 (三番茶摘採直後)	1 1 11 11 11 11 11 29 M5 10・1 24・M1 24・M1	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 アミスター20フロアブル スクレアフロアブル ストロビーフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 フリントフロアブル25 フロンサイドSC ダコニール1000 (混)ニマイバー水和剤 (混)カスミンボルドー (混)銅パーシン水和剤
5 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 夏場干ばつ時には灌水を行う。 2. 夏から秋にかけて肥料分の極端な過不足をなくす。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 菌が花を介して葉や芽に感染する。 2. 開花期に雨が多いと発生しやすい。	11 ～ 12 月 (開花期)	29 M5 M7・M1	フロンサイドSC ダコニール1000 (混)ベフドー水和剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
6 新梢枯死症 (輪斑病 <i>Pestalotiopsis longiseta</i>)	1. 耐病性品種 (めいりよく等) を栽植する。 2. 多発園においては三番茶の摘採を中止する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 輪斑病菌により発生する。 2. アミスター20フロアブル、スクレアフロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル25は、浸透性を高める展着剤を加用すると薬害のおそれがあるので注意する。	6 月上中旬 (二番茶芽開葉期) 7 月中下旬 (三番茶芽開葉期) 8 月下旬 ～9月中旬 (秋芽開葉期)	3 11 11 11 11 29 M1 M1 M5 10・1 24・M1 24・M1 M7・M1	オンリーワンフロアブル アミスター20フロアブル スクレアフロアブル ストロビーフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 フリントフロアブル25 フロンサイドSC コサイド3000 フジドーLフロアブル ダコニール1000 (混)ニマイバー水和剤 (混)カスミンボルドー (混)銅パーシン水和剤 (混)ベフドー水和剤
7 褐色円星病 <i>Pseudocercospora ocellata</i> <i>Cercospora chaae</i>	1. 樹勢を衰弱させないように肥培管理に注意する。 2. 排水を良好にする。	7 月中下旬 8 月下旬 ～9月中旬	1 1 3 3 3 11 11 29 M1 M5 10・1 24・M1 24・M1 M7・M1	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 マネージ水和剤 フリントフロアブル25 ファンタジスタ顆粒水和剤 フロンサイドSC コサイド3000 ダコニール1000 (混)ニマイバー水和剤 (混)カスミンボルドー (混)銅パーシン水和剤 (混)ベフドー水和剤
8 赤焼病 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>theae</i>	1. 強風を伴う降雨後に感染しやすいため、常発地や幼木園では防風ネットを設置する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 感染時期は10～11月及び2～3月で、潜伏期間は20～30日なので、越冬病斑の多い園では2月中下旬と3月上中旬の2回、薬剤散布する。	2 月下旬 ～3月中旬	M1 M1 M1 M1 M1 M1 24・M1 24・M1 M7・M1	コサイド3000 ドイツボルドーA Zボルドー ムッシュボルドーDF ICボルドー66D フジドーLフロアブル (混)カスミンボルドー (混)銅パーシン水和剤 (混)ベフドー水和剤
9 白紋羽病 <i>Rosellinia necatrix</i>	1. 被害株を除去し、処分する。			
10 芽枯れ症 (銅欠乏症)	1. 粗粒質の花崗岩土壌へ堆肥などを多量に投入すると発生しやすい。 2. 多発茶園では、炭疽病等の病害防除を兼ねて銅水和剤の散布を年1回以上は心がける。			
11 カンザワハダニ	1. 凍霜害後に多発するので、凍霜害防止に努める。 2. 新芽に発生が見られたら早めに摘採する。 3. 干ばつ条件下で多発しやすいため、灌水を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 発生初期の低密度期に十分量の散布を行い、徹底した防除をする。 2. 使用薬剤の選定には、特に茶芽の状態と残臭期間に注意し、同一薬剤を連用しない。 3. コテツフロアブル、サンクリスタル乳剤、ミルベノック乳剤、アグリメック、サンマイトフロアブル、ダニゲッターフロアブル、ダブルフェースフロアブルは、チャノナガサビダニにも登録がある。 4. パロックフロアブルは、5月下旬～9月上旬にも使用できる。 5. コテツフロアブル、ミルベノック乳剤、アグリメック、ダニトロンフロアブル、サブル、ダブルフェースフロアブルは、チャノホコリダニにも登録がある。 6. コテツフロアブル、アグリメック、ダニトロンフロアブル、ピラニカEW、サンマイトフロアブルはチャノミドリヒメヨコバイにも登録がある。 7. ピラニカEWは、3月中旬～下旬の低温期にも効果がある。ただし、残効性に欠ける。 8. サンクリスタル乳剤、ミルベノック乳剤、ダニトロンフロアブルはチャノホソガにも登録がある。 9. トモノールS (マシン油乳剤) は、摘採前4週間は使用しない。また、成葉に油が残ることから、摘採時に成葉が混入しないようにやや浅摘みをする。	11 月 中 旬 3 月 中 下 旬 (一番茶萌芽前) 4 月 上 旬 ～5 月 上 旬 (一番茶芽 生育期) 5 月 中 旬 (一番茶摘採後) 7 月 上 中 旬 (二番茶摘採後) 9 月 上 旬 (秋芽開葉期) 5 月 ～ 9 月 冬 期	10B 13 - - 6 6 21A 21A 21A 23 25A 25B 25B・21A UNM UN	パロックフロアブル コテツフロアブル 粘着くん液剤 サンクリスタル乳剤 ミルベノック乳剤 アグリメック ダニトロンフロアブル ピラニカEW サンマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニサラバフロアブル ダニコングフロアブル ダブルフェースフロアブル トモノールS 石灰硫黄合剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
12 チャノホソガ (チャノサンカクハマキ)	1. 被害葉が見られ始めたら早めに摘採し、幼虫の除去に努める。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 薬剤散布の時期が茶芽の開葉期に当たるので、残臭期間に注意し、使用薬剤を選定する。	4月下旬 ～5月上旬 (一番茶芽生育期) 6月上旬中旬 (二番茶芽生育期) 7月中下旬 (三番茶芽生育期) 9月上旬中旬 (秋芽開葉期)	1B	カルホス乳剤
			2B	キラップフロアブル
			4A	モスピランSL液剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			5	ディアナSC
			6	アフアーム乳剤
			6	アグリメック
			11A	エスマルクDF
			11A	バシレックス水和剤
			11A	サブリーナフロアブル
			14	パダンSG水溶剤
			15	デミリン水和剤
			15	ノーモルト乳剤
			15	マツチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			18	マトリックフロアブル
			18	ファルコンフロアブル
			18	ロムダンフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	フェニックスフロアブル
			28	サムコルフロアブル10
			28	ヨーバルフロアブル
34	ファインセーフフロアブル			
34	アベンジャーフロアブル			
4A・15	(混)リーズン顆粒水和剤			
21A・16	(混)アプロードエースフロアブル			
13 チャノコカクモンハマキ チャハマキ	1. 三番茶不摘採園では発生が多くなるので、樹勢の強い園では、三番茶を摘採する。なお樹勢の弱い園では、摘採しない。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 防除は、第2世代幼虫期に当たる7月上旬中旬と第3世代幼虫期に当たる8月中下旬を重点にする。 2. ハマキコン-Nの注意事項 ・越冬世代成虫発生初期(3月中旬)に設置する。 ・ディスペンサーは10a当たり150～250本とし、ほぼ8割程度を均等に設置し、残り2割程度を周辺に処理する。 ・摘採面下10cm位の位置に設置して、2.2～2.4m間隔で取り付ける。 ・Ⅲ-25. フェロモン剤についての項参照。	5月中旬 (一番茶摘採後) 7月上旬中旬 (二番茶摘採後) 8月中下旬 (三番茶摘採後) 9月下旬 ～10月上旬 (秋芽生育期)	1B	トクチオン乳剤
			1B	ダーズバン乳剤40
			5	スピノエースフロアブル
			5	ディアナSC
			6	アフアーム乳剤
			6	アグリメック
			11A	エスマルクDF
			11A	サブリーナフロアブル
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	バシレックス水和剤
			11A	チェーンアップ顆粒水和剤
			15	マツチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			15	アタブロン乳剤
			18	ロムダンフロアブル
			18	マトリックフロアブル
			18	ファルコンフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	フェニックスフロアブル
			28	サムコルフロアブル10
			28	ヨーバルフロアブル
			4A・15	(混)リーズン顆粒水和剤
3月中旬 ～9月中旬	-(フェ)	ハマキコン-N		
14 チャノミドリヒメヨコバイ	1. 摘採間近になって幼虫の発生が増加してきた場合は早めに摘採し、虫を除去する。 2. 摘採後の雨落ち部に残る遅れ芽などは成虫の産卵場所になるので、早めに裾刈りを行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. チャノミドリヒメヨコバイは一番茶摘採後から10月中旬ごろまで間断なく発生がみられるが、特に二、三番茶の開葉期と秋芽に発生が多いので、この時期に防除する。 2. アプロード水和剤は幼虫に登録がある。	6月上旬中旬 (二番茶芽開葉期) 7月中下旬 (三番茶芽開葉期) 9月上旬中旬 (秋芽開葉期)	1B	オルトラン水和剤
			1B	ジェイエース水和剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			9B	コルト顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			14	パダンSG水溶剤
15	カスケード乳剤			
16	アプロード水和剤			

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
			21A 21A 21A 4A・15 21A・16	ハチハチ乳剤 ハチハチフロアブル ピラニカEW (混)リーズン顆粒水和剤 (混)アプロードエースフロアブル
15 チャノキイロアザミウマ	1. 夏から秋にかけての整枝や肥培管理により、秋芽の伸長を止め、硬化を早める。 (薬剤使用の特記事項) 1. チャノキイロアザミウマの防除は、チャノミドリヒメヨコバイにも登録のある薬剤を用いて同時防除とする。 2. アドマイヤー水和剤はチャノホソガにも登録がある。 3. コルト顆粒水和剤はかけむらがないよう、特に注意する。また、食害防止効果は速やかに発現するが、殺虫効果は遅効的である。	6 月上中旬 (二番茶芽開葉期) 7 月中下旬 (三番茶芽開葉期) 9 月上中旬 (秋芽開葉期)	1B 1B 1B 2B 4A 4A 4A 4A 4A 5 5 6 6 9B 13 14 15 15 21A 21A 34 34 4A・15	オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤 トクチオン乳剤 キラップフロアブル アドマイヤー水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 スピノエースフロアブル ファイアナムS アファーム乳剤 アグリメック コルト顆粒水和剤 コテツフロアブル パダンSG水溶剤 マツチ乳剤 カスケード乳剤 ハチハチ乳剤 ハチハチフロアブル ファインセーブフロアブル アベンジャーフロアブル (混)リーズン顆粒水和剤
16 ツマグロアオカシメ	1. 茶園周辺の間寄主植物(アレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ヨモギ)を8月下旬～9月上旬に除去し、成虫の発生源を断つ。	4 月上中旬 (一番茶萌芽期～開葉期) 6 月上中旬 (二番茶芽開葉期)	1B 2B 4A 4A 9B	スミチオン乳剤 70 キラップフロアブル アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 コルト顆粒水和剤
17 コミカンアブラムシ	1. 茶園内が多湿にならないよう、除草などに努める。	4 月下旬 ～5 月上旬 (一番茶芽生育期) 6 月中下旬 (二番茶芽生育期)	4A 4A	モスピランSL液剤 ダントツ水溶剤
18 クワシロカイガラムシ	1. 敷草は、十分に乾燥させた後、茶園に持ち込む。 2. 苗木は寄生の有無を確認し、寄生苗は処分する。 (薬剤使用の特記事項) 1. 防除は幼虫ふ化期に行い、薬液が枝幹に十分にかかるように散布する。 2. 5月中下旬の第1世代幼虫はふ化が比較的斉一なので、防除効果が高い。 3. アプロード水和剤、アプロードフロアブルはクワシロカイガラムシ若齢幼虫に登録がある。 4. マシン油乳剤(アタックオイル、スピンドロン乳剤、スプレーオイル、トモノールS、ハーベストオイル)は寒干害防止に効果がある。ただし、冬期使用については、「赤焼病」を助長することがあるため、発生しやすい幼木や2月に常発する園は散布しない。また、成園で2月に「赤焼病」が発生みられる場合は、銅剤を散布する。なお、この場合薬害回避のため、1ヶ月以上散布間隔を空ける。	5 月中下旬 (一番茶摘採後) 7 月中下旬 (三番茶芽開葉期) 9 月中下旬 (秋芽生育期) 最終摘採後 ～冬期	1B 9B 16 16 21A 21A・16 1B UNM UNM UNM UNM UNM	ダーズバン乳剤 40 コルト顆粒水和剤 アプロード水和剤 アプロードフロアブル ダニトロンフロアブル (混)アプロードエースフロアブル エルサン乳剤 アタックオイル スピンドロン乳剤 スプレーオイル トモノールS ハーベストオイル

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除			
		防除時期	RACコード	薬 剤	
19 チャトゲコナジラミ	1. 深刈り剪枝等で、寄生葉を除去し埋没する 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 若齢幼虫期の防除に努める。 2. すそに寄生が多いので、重点的に散布する。 3. コルト顆粒水和剤はかけむらがないよう、特に注意する。また、食害防止効果は速やかに発現するが、殺虫効果は遅効的である。 4. 春季～秋期のマシン油乳剤（アタックオイル、トモノールS）は、摘採前4週間は使用しない。また、高温時の散布は避ける。 5. マシン油乳剤の冬期使用は、クワシロカイガラムシの項を参照。	6 月上旬 (一番茶摘採後)	4A 5	ダントツ水溶剤 ディアナSC	
		8 月上旬 (二番茶摘採後)	9B 13	コルト顆粒水和剤 コテツフロアブル	
		9月下旬～ 10月上旬 (秋芽生育期)	16 23 21A 21A 21A・16	アプロード水和剤 ダニゲッターフロアブル ハチハチ乳剤 ハチハチフロアブル (混)アプロードエースフロアブル	
	春季～秋期	UNM UNM	アタックオイル トモノールS		
	冬期	UNM UNM UNM	アタックオイル スプレーオイル トモノールS		
20 ヨモギエダシヤク (シヤクトリムシ)	1. 成虫は、茶園周辺の樹木の樹皮下や建物のすき間にかためて産卵するので、圃場周辺の環境を整理する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 発生初期の若齢幼虫期の防除に努める。 2. フェニックス顆粒水和剤はかけむらがないよう、特に注意する。また、食害防止効果は速やかに発現するが、殺虫効果は遅効的である。	9月下旬 ～10月上旬 (秋芽生育期)	5 5 6 11A 11A 11A 11A 15 15 15 15 18 18 18 28 28 28	スピノエースフロアブル ディアナSC アフアーム乳剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 トアロー水和剤CT バシレックス水和剤 ノーモルト乳剤 マツチ乳剤 カスケード乳剤 アタブロン乳剤 ロムダンフロアブル マトリックフロアブル ファルコンフロアブル フェニックス顆粒水和剤 サムコルフロアブル10 ヨーバルフロアブル	
		21 土壤線虫 チャネグサレセンチュウ	1. 土壤の物理性をよくする。 2. 排水をよくする。 3. 化学肥料にかたよらず、堆肥を多く施す。 4. 多肥を控え、健全な細根を育てる。 5. 適宜、深耕や中切りを行い、樹勢の回復を図る。		